

松阪市議会

議長 山本 芳敬様

平成 30 年 5 月 22 日

市民クラブ

楠谷さゆり

視察報告書

今般、下記のとおり視察を実施いたしましたので、その内容等を報告します。

1. 視察の日程 平成30年5月19日（木）
2. 参加者 楠谷さゆり
3. 視察先 長野県県民文化部次世代サポート課 竹内延彦氏
4. 場所 美濃加茂市生涯学習センター
5. 目的 長野県は移住先希望日本一の人気を誇っている。その魅力の一つが自然体験型保育の普及と言われている。自然保育とはどのようなもので、その効果はどのように認識されているのか。三重県、松阪市にも将来、選択肢として採り入れていくべきものなのか、考える糸口としたい。

記



1. 自然保育とは何か

豊かな自然環境や多様な地域資源を活用した屋外を中心とする様々な体験活動を、積極的に保育や幼児教育に取り入れる活動である。長野県では、27年4月から「信州型自然保育認証制度」を開始し、独自の方法で、現在全ての保育園、幼稚園の2割にあたる152園が自然保育認定園として認証されている。その中で屋外での体験活動を週5時間以上実施する「普及型」の認定園は142、週15時間以上実施する「特化型」の認定園は11である。

「普及型」は他のプログラムと併せて自然保育にも積極的な活動をしており、また「特化型」は質、量ともに自然保育に重点を置いて活動をしている。「特化型」11園の中で10園は認可外保育施設の「森のようちえん」で、これは森や川など自然の中での遊びや学習を主とする施設である。

2. なぜ自然保育なのか

現代では、自己肯定感の低い子どもたちが増え続け、また、学年が上がるにつれ大きく低下している。国立青少年教育振興機構の調査（26年3月）では、自己肯定感と幼児期の自然体験、生活体験は比例しており、小中高とも自然体験、生活体験が豊富な青少年ほど、自己肯定感が高い。そこで、子どもの自己肯定感を高めるためには、幼児期の自然体験や生活体験が不可欠であることが導き出される。

自然体験、生活体験からは非認知的スキル（自己肯定感、創造性、社会性、主体性など、人間の生きる力とされる「見えない能力」）が育ち、それが小学校からのアクティブ・ラーニング（主体的で対話的な深い学び）に繋がるものである。

3. 自然保育に期待される効果

子どもにとっては、非認知的能力の向上、自由で主体的な遊びを通じて学びに向かう力が向上、幼児期の外遊びを通じて学童期の体力が向上、発達凹凸や様々な特性を持つ子どもにも有益とされる。

保育者にとっては、仕事のストレスが軽減され保育への意欲が向上、保育者としての資

質やスキルが向上、保護者とのコミュニケーションが広がり信頼関係が構築でき、結果、人材確保の可能性が高まる。また、男性保育者の活躍の場も広がることが期待される。

地域社会にとっては、子育てが楽しいという保護者が増え、子育て世代の移住促進の原動力になる。また、地域住民の交流が広がり地域が活性化する。その先には、子どもの故郷への愛着が高まり、将来子育てのために帰ってくる故郷となる期待が高まる。

4. 質疑応答

Q: 森や川が近くに無いような町では、自然保育はできないのでは。

A: 自然環境が限られていても自然保育は可能である。公園を利用したり、時々森に遠足に行くだけでも良い。また、町探検としてリアルなものに触れることで生活体験は可能であるし、空や風、虫など何からでも子どもたちは発見をすることができる。

Q: 小学校に上がってから、不登校や落ち着いて椅子に座ってられないなどの、問題行動を起こすことはないか。

A: それは現場を「見ていない」者の先入観である。外遊びをすることによって、逆に体幹が鍛えられ筋肉がついて、座ってられる時間は長くなる。自然保育の意義を正確に知って欲しい。

Q: 外遊びの危険性について、リスクに対する保護者の理解はどのように求めるか。

A: リスクとハザードの違いを理解してもらおう。リスクはチャレンジする際の危険であり、子どもたち自身が予測、対処が可能である。一方、ハザードは子ども自身が予測、対処できない危険のことで、大人が事前に対処しておくことが大切である。しかしながら、ハザードを恐れるあまり、子どもたちのチャレンジのチャンスであるリスクを大人が排除してはならない。

5. 所感

新聞報道によると、3歳～6歳児の半数以上がスマートフォンやタブレット端末を日常的に使用しているという。ゲームや動画がほとんどであると推測されるが、それはバーチャルな世界ばかりで、外で遊ぶことや、町に買い物に行って実際の「モノ」に触れるのは体験の質が異なる。子どもたちの豊かな情緒や感受性は、五感を育むことで得られるのではないかと思われるし、また、この時期には「教育」ではなく、「想像」や「創造」の力を自然とつけていくのが理想的であり、それには「自然保育」の実践は効果的に思える。

三重県でも自然保育への関心が広がっているそうであるが、松阪市でも試験的に作ってみるのもいいのではないかと思う。中山間部の市域が広く、休校に追い込まれる幼稚園もある松阪市の現状に、救世主となる可能性のある概念かもしれない。

以上

